

目次

はじめに

第1章 点字以前	3
1. ヨーロッパの塙保己一.....	3
2. サンダーソンの計算盤.....	3
3. バランタン・アウイの凸字.....	5
4. ムーンタイプ.....	7
5. ボストンタイプ.....	10
6. クラインの針文字.....	10
7. 針線凸字.....	11
8. 結び文字.....	12
9. 楽善会.....	12
10. 葛原勾当日記.....	16
第2章 点字の開発	17
1. 点字の誕生.....	17
2. ルイ・ブライユの生涯.....	25
3. 点字のふるさとを訪ねて.....	33
第3章 英語点字の統一	39
1. アーミテージの業績.....	39
2. ニューヨークポイント.....	40
3. 点字戦争.....	43
4. 英語点字の統一.....	46
第4章 点字の翻案	50
1. 手島精一と目賀田種太郎.....	50
2. 出会い.....	51
3. 3つの原案.....	52
4. 点字選定会議.....	54
5. 拗音の完成.....	56
6. 6字の名号.....	56
第5章 点字の実際	60
1. 仮名文字文化.....	60
2. 点字の仕組み.....	64

(1) 清音 (五十音)	65
(2) 濁音および半濁音	66
(3) 拗音・拗濁音・拗半濁音	66
(4) 特殊音	67
(5) 数字とアルファベット	68
(6) 句読符	70
(7) 囲みの符号	71
(8) 線類の符号	72
(9) その他の符号	73
3. 点字の仮名遣い	75
(1) 助詞の「ハ」・「へ」	75
(2) 促音・長音	76
(3) 連濁・連呼	77
(4) 外来語や擬声語・擬態語	78
4. 数字および数を含む言葉	79
(1) 数字の書き方	79
(2) 数字に続けて書く言葉	80
(3) 固有名詞や慣用句など	81
5. アルファベットを含む言葉	83
(1) アルファベットの書き方	83
(2) アルファベットを含む言葉	83
6. 点字の分かち書き	85
(1) 文節分かち書き	85
(2) 接頭語および接尾語	86
(3) 形式名詞と補助用言	87
(4) 文節内の切れ続き	88
(5) 意味と拍による文節内の切れ続き	89
(6) 不自然な切れ続き	91
(7) 動詞「する」の切れ続き	92
(8) 複合動詞や複合形容詞	94
(9) 連濁を生ずる場合	94
(10) 漢字1字ずつが対等な関係で並んでいる場合	95
(11) 繰り返し言葉	95
(12) 固有名詞	95

第6章 分かち書きの原則

1. 言葉の階層構造と点字	97
2. 分かち書きの必要性	97

3. 具体例	98
4. 簡便な文節判断法	99
5. 助詞と助動詞	99
6. 文節の形	100
7. 文節の役割	101
8. 形式名詞	102
9. 補助用言	102
10. 連用修飾節と用言	103
11. 接頭語、接尾語、造語要素	103
12. 複合名詞の切れ続き	104
13. 漢字の表意性と表音性	105

第7章 点字表記の変遷 107

1. 中村京太郎と表音表記	107
2. 表音表記への流れ	108
3. 3つの点字規則	109
4. 1枚の資料を求めて	112
5. 日本点字研究会成立の背景	113
6. 日本点字研究会の成立	114
7. 『点字文法』	115
8. 『点字文法』に込められた願い	115
9. 全日盲研と日盲社協	116
10. 日本点字委員会の発足	117
11. 日点委の性格	118
(1) 目的	118
(2) 委員	118
(3) 事業	118
12. 『日本点字表記法（現代語篇）』の出版をめぐって	119
13. 近畿点字研究会の発足	122
14. 表記法改訂を目指して	123
15. 『日本点字表記法1990年版』	124
16. 『日本点字表記法2001年版』	127
17. その他の点字表記	129
(1) 試験問題表記について	129
(2) 理数記号について	129

第8章 点字の触読 132

1. 感覚機能	132
---------	-----

2. 感覚の種類	132
3. 皮膚感覚	133
4. 触圧覚	134
5. 点字触読のメカニズム	136
6. 点の高さ（1つの実験）	139
7. 片手読みと両手読み	141
8. 文字読みから文節読みへ	144
9. 点字の読み速度	144
10. 私の点字触読指導法	146

第9章 点字図書館

1. 点字図書館とは	150
2. 日本点字図書館の創立者 本間一夫	151
3. 点訳奉仕運動	155
4. 点訳奉仕運動の広がり	156
5. 増加する点字図書館	158
6. 日本点字図書館の歩み	160
(1) 法人格の取得	160
(2) 焼失した館の再建	161
(3) テープライブラリーの開設	162
(4) 点字教室の新設	163
(5) 盲人用具部の併設	164
7. 点字図書館の先駆	164
(1) 東京盲学校附属図書館	165
(2) 名古屋市立図書館点字文庫	166
(3) 日本ライトハウス点字図書館	167
(4) 東京盲学校同窓会（桜雲会）	167
(5) その他の点字図書館	168
8. 全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）	168

第10章 戦前における点字の出版事業

1. ホールと仲村豊次郎	171
2. 我が国最初の点字印刷	172
3. 米国聖書会社	172
4. 桜雲会	173
5. ブライユ社	175
6. 点字週刊新聞「あけぼの」	176
7. 山岡熊次の国語教科書	178

8. 川越源治と大貫伊太郎	179
9. 再び「あけぼの」	180
10. 雑誌「信光」	180
11. 光の家	181
12. 「ひかりの園」	182
13. 小浜伊次郎と中学講義録	182
14. 伊達勝芳と江村悌三	183
15. 弘誓社	183
16. 日本点字社	184
17. 大阪点字毎日	185
18. 点字東洋日刊新聞	186
19. 日本ライトハウス	188
20. 斎藤武弥と夫人百合の働き	189
21. 東京点字出版所	190
22. 平井点字社	191
23. 点字聖書の出版	191
24. 我が国における点字出版の特徴	193
25. 東京ヘレン・ケラー協会 点字出版局	194

第11章 点字の市民権の拡大	197
1. 点字による盲教育の発展	197
2. 点字投票	198
3. 大学の門戸開放	200
4. 各種の資格試験	201
5. 点字技能師	202
6. 暮らしの中の点字	203
7. 街に見られる点字	205
8. 点字J I S規格	206

第12章 点訳奉仕運動	208
1. 代表的ボランティア活動	208
2. アメリカの点字図書館を見学して	209
3. 点訳ボランティアを志す人々	211
その1「点字を始めたきっかけ」	212
その2「目の不自由な夫婦との出会いから」	214
その3「短歌を書いてみました」	216
その4「数学の参考書を」	219
その5「点訳教室で1年間学んで」	223